

Cisco 220シリーズスマートプラススイッチでのループバック検出の有効化

目的

ループバック検出(LBD)は、ループ保護が有効になっているポートからループプロトコルパケットを送信することによってループを防止する、スイッチの機能です。スイッチがループプロトコルパケットを送信した後に同じパケットを受信すると、そのパケットを受信したポートをシャットダウンします。

LBDは、スパニングツリープロトコル(STP)とは独立して動作します。ループが検出されると、ループを受信したポートはシャットダウン状態になります。トラップが送信され、イベントがログに記録されます。ネットワーク管理者は、LBDパケット間の時間間隔を設定する検出間隔を定義できます。

- 指定したポートでLBDをアクティブにするには、次の条件を設定する必要があります。
- LBDはグローバルに有効になっています。
- LBDが特定のポートで有効になっている。
- ポートの動作ステータスはupです。
- ポートはSTPフォワーディング状態または無効状態です。

この記事では、Cisco 220シリーズSmart Plusスイッチでループバック検出を有効にする方法について説明します。

適用可能なデバイス

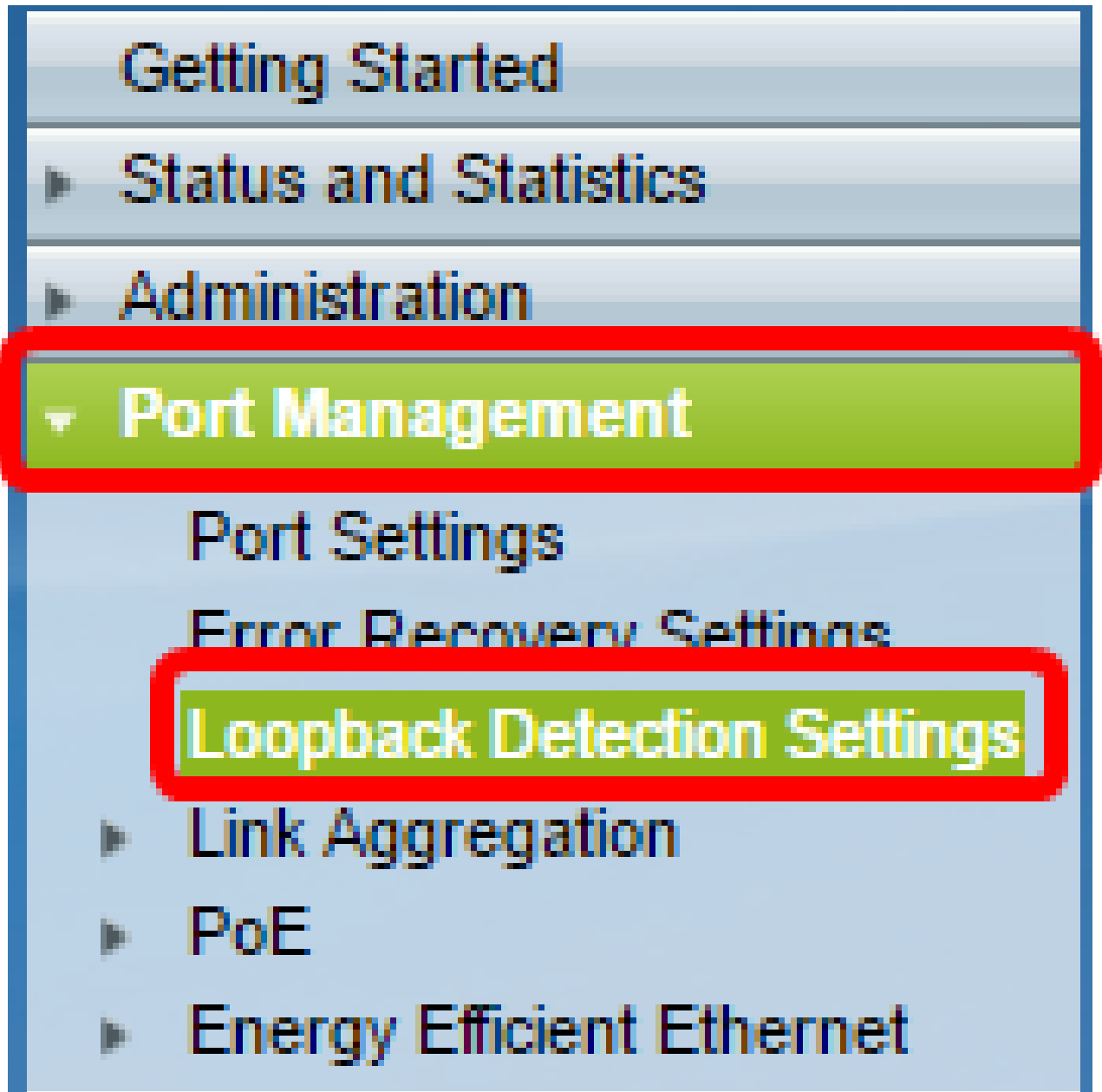
- Sx220シリーズ

[Software Version]

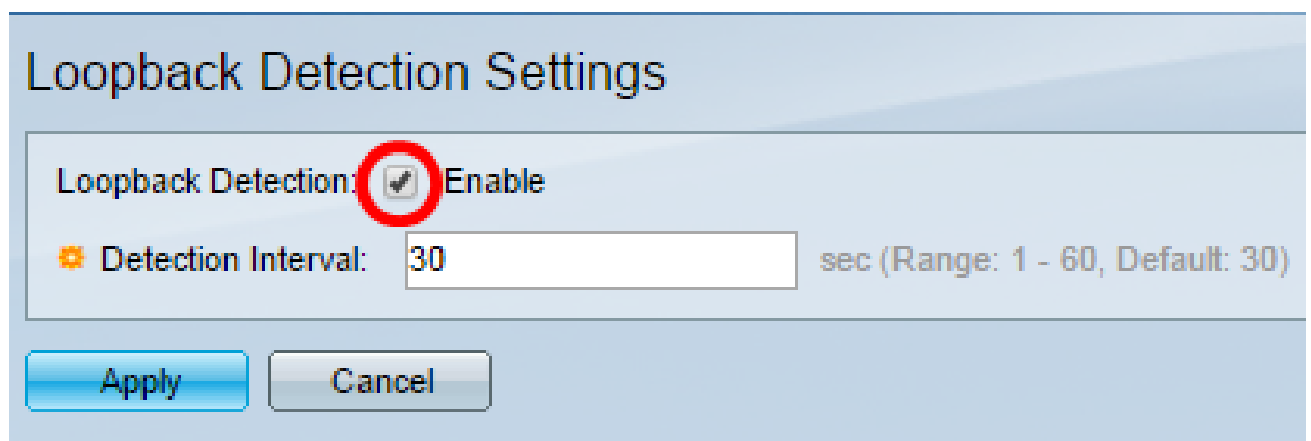
- 1.1.0.14

ループバック検出の有効化

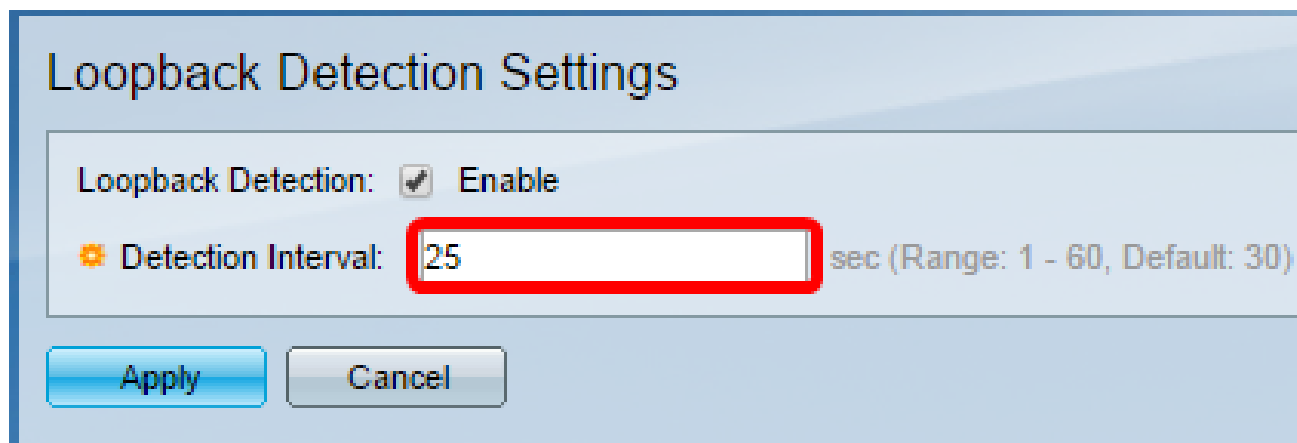
ステップ 1 : スwitchのWebベースユーティリティにログインし、Port Management > Loopback Detection Settingsの順に選択します。



ステップ 2 : Loopback DetectionのEnableチェックボックスにチェックマークを入れます。



ステップ 3 : Detection Intervalフィールドに値を入力します。これにより、LBDパケット間の時間間隔が秒単位で設定されます。



Loopback Detection Settings

Loopback Detection: Enable

Detection Interval: sec (Range: 1 - 60, Default: 30)

Apply Cancel

注 : この例では、25が使用されています。

ステップ 4 : [APPLY] をクリックします。

ステップ 5 : 構成を永続的に保存するには、[構成のコピー/保存]ページに移動するか、ペー



ジの上部にある
アイコンをクリックします。

ポートのループバック検出の有効化

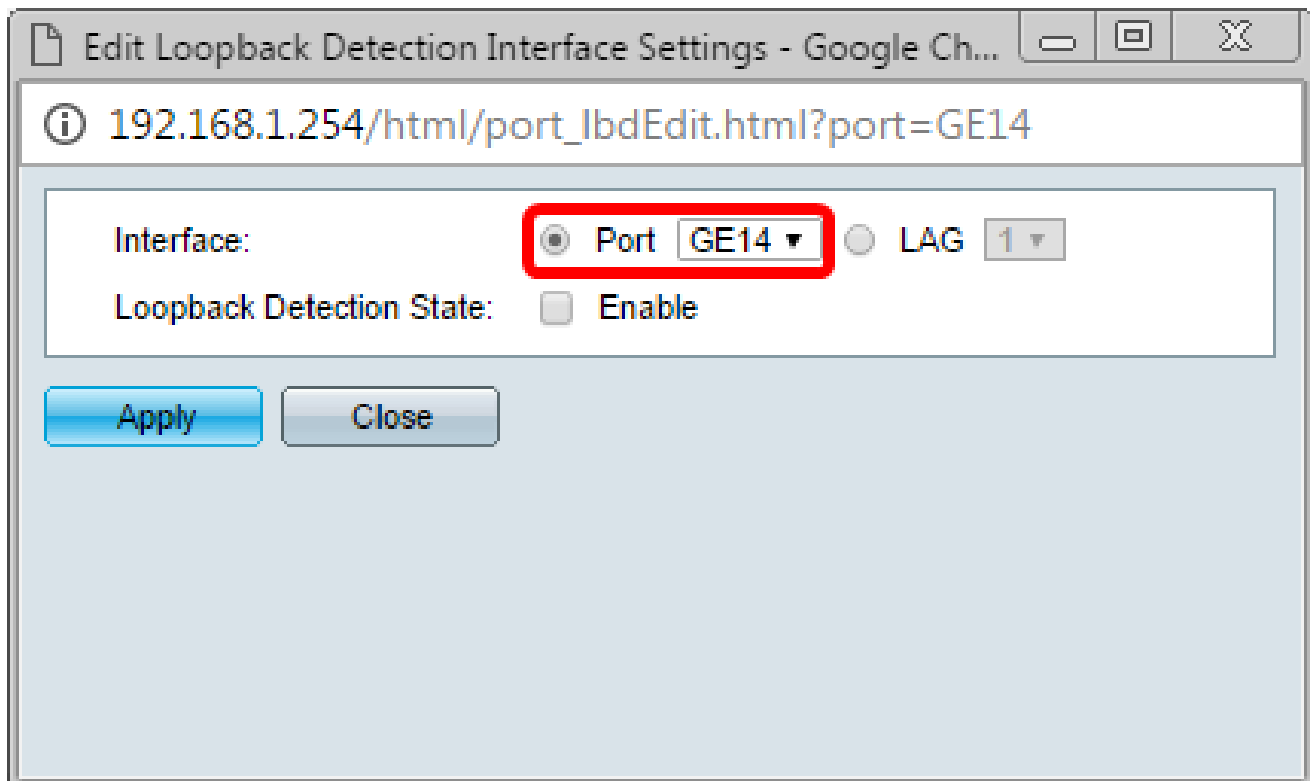
ステップ 1 : Loopback Detection Port Setting Tableの下で、設定するポートのオプションボタンをクリックし、Editをクリックします。

<input type="radio"/>	11	GE11	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	12	GE12	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	13	GE13	Disabled	Inactive
<input checked="" type="radio"/>	14	GE14	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	15	GE15	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	16	GE16	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	17	GE17	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	18	GE18	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	19	GE19	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	20	GE20	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	21	GE21	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	22	GE22	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	23	GE23	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	24	GE24	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	25	GE25	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	26	GE26	Disabled	Inactive

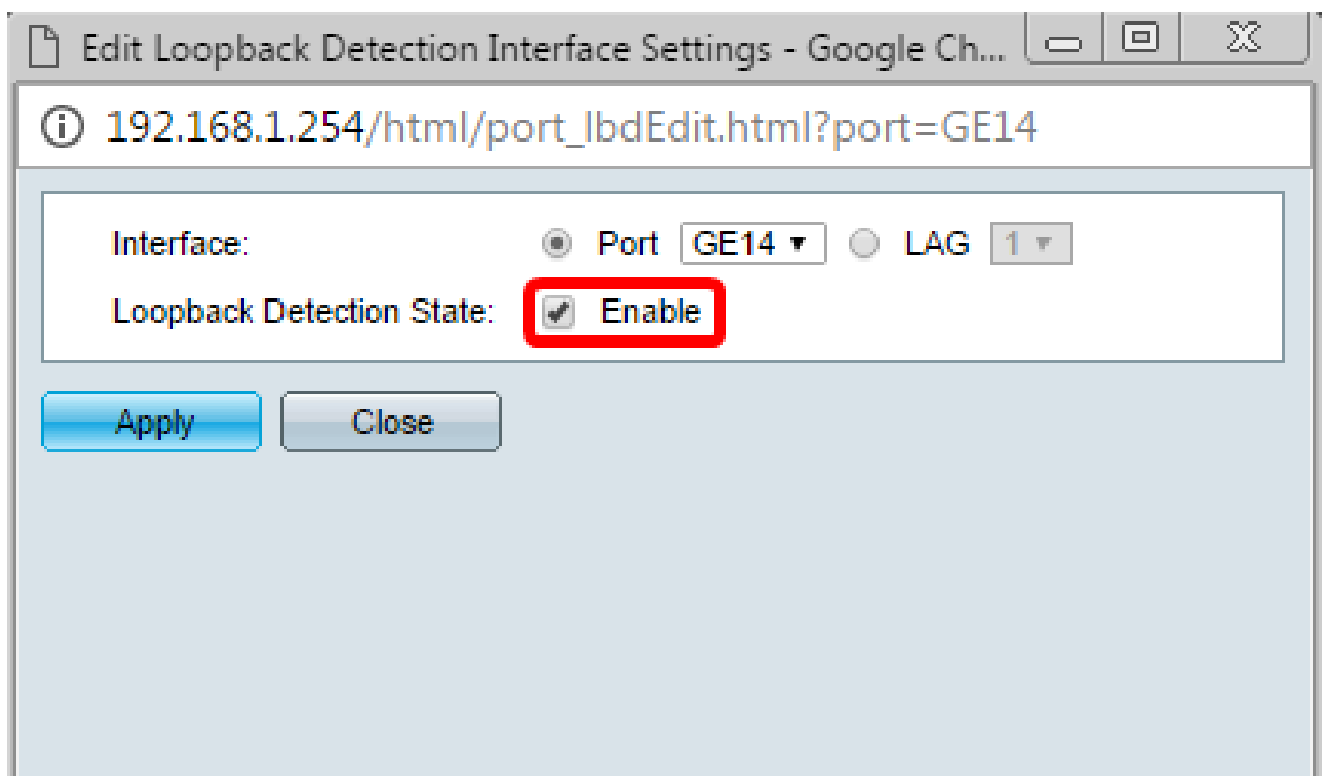
Copy Settings... Edit...

注：この例では、ポートGE14が選択されています。

ステップ 2：Edit Loopback Detection Interface Settingsウィンドウが表示されます。Interfaceドロップダウンリストから、指定したポートがステップ1で選択したポートであることを確認します。それ以外の場合は、ドロップダウン矢印をクリックして適切なポートを選択します。



ステップ 3 : Loopback Detection StateのEnableチェックボックスにチェックマークを入れます。



ステップ 4 : [APPLY] をクリックします。

ステップ 5 : 構成を永続的に保存するには、[構成のコピー/保存]ページに移動するか、ペー



ジの上部にある
アイコンをクリックします。

手順 6 : Port Management > Loopback Detection Settings ウィンドウに戻り、設定を確認します。Loopback Detection Administrative StateはEnabledとなり、Operational StateはActiveとなります。

Loopback Detection Port Setting Table

Filter: *Interface Type* equals to

	Entry No.	Interface	Loopback Detection State	
			Administrative	Operational
<input type="radio"/>	1	GE1	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	2	GE2	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	3	GE3	Enabled	Inactive
<input type="radio"/>	4	GE4	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	5	GE5	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	6	GE6	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	7	GE7	Enabled	Inactive
<input type="radio"/>	8	GE8	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	9	GE9	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	10	GE10	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	11	GE11	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	12	GE12	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	13	GE13	Disabled	Inactive
<input checked="" type="radio"/>	14	GE14	Enabled	Active
<input type="radio"/>	15	GE15	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	16	GE16	Disabled	Inactive

手順 7 : LBDを有効にするポートごとに、ステップ1 ~ 4を繰り返します。

これで、スイッチの特定のポートでループバック検出が正常に有効になったはずです。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。